

SMFGは三井住友銀行の戦略金融部門を中心として、企業再生ビジネスに積極的に取り組んでいきます。

【前年度の成果】

戦略金融部門は、取引先企業の再建や事業再編に集中的に取り組むため、既存の関連各部署を次のとおり集約して平成14年12月に設置された新しい部門です。

融資管理部（コーポレートサービス部門より移管）

東京融資業務第一部～第六部、大阪融資業務第一部～

第三部、神戸融資業務部（法人部門より移管）

融資第一部～第四部（企業金融部門より移管）

（表記は平成15年6月の部門内組織変更実施後のもの）

上記各部を支援するスタッフとして当部門に新設された「戦略金融統括部」には、資産流動化や企業組織再編、企業再生ファンド組成等、企業再生にかかわるノウハウや、会計・法務等の専門スキルを有する人材を行内横断的に集めました。

SMBCの金融再生法に基づく開示債権（国内）の約8割は当部門所管です。

当部門として最初の案件は、日本リバイバルファンドの立ち上げでした。これは、金融機関等からの債権購入や対象企業へのエクイティ投資等を行う、いわゆる企業再生ファンドを（株）東京三菱銀行および地銀13行とともに立ち上げ、平成14年下期より投資活動を開始したものです。

また、SMBCの不良債権流動化実績は、平成13年度4,674億円に対し、平成14年度1兆1,245億円（うち下期9,311億円）と、当部門設置以来オフバランス化を加速しました。

【今後の取り組み】

今後は、投資銀行的手法を取り入れつつ、また、産業再生機構や整理回収機構等の政府系機関や外資、プロパティマネジメント会社その他外部専門家の有効活用も図りながら、取引先企業の再建や事業再編に一段と力を注ぐとともに、不良債権の最終処理（オフバランス化）に向けて積極的に取り組み、新BIS規制導入を見据えた銀行の与信ポートフォリオ改善の早期実現を目指します。

企業再生の可能性を最大限に追求するべく知恵を絞っていく場合は、一面ではぎりぎりの情勢判断を迫られる厳しさがありますが、反面、M&Aをはじめ、新しいビジネスチャンスやそれを活かすノウハウの宝庫でもあります。また、貸出債権流動化、不動産証券化や企業再生ファンド組成等の動きは、将来のわが国金融市場のさらに大きな構造変化につながりうるものです。SMFGとして、産業構造の変化のなかで、将来に向けて自らのビジネスを改めてとらえ直していく見地からも、これらの新しい動きに積極的に関わっていきたいと考えます。

